

24.03.29 現在

「集落の将来」を考えるサポートツール よりよい活用の手引き

令和6年（2024年）3月

Ver.0

目次

1. サポートツールの作成パターン
2. 「集落カルテ」の作成
3. 「集落マップ」の作成
4. 情報の一元化

1. サポートツールの活用パターン

3

サポートツールの作成パターン

●サポートツールの作成パターン（例）

パターン	パターン選択の視点	作成手順（簡略標記）
①動機づけ・ 取り組み やすさを優先	<ul style="list-style-type: none">・ 住民への動機づけ（意欲・取組姿勢）を高めることを優先したい場合・ 集落情報が一定共有されている場合・ 集落の情報整理への負担に拒否反応や時間・手が取れない場合など	【B】集落マップ⇒【A】集落カルテの順に作成
②情報整理 を優先	<ul style="list-style-type: none">・ 集落情報が十分に把握できていない・整理できていない場合・ 取組スケジュールに余裕がある場合・ 集落規模が一定程度大きく（あるいは複数集落で同時に取り組む）、全体像を把握する必要がある場合 など	【A】集落カルテ⇒【B】集落マップの順に作成



POINT!

サポートツールは、集落や地域の実情に応じて、
カスタマイズして活用できます！



住民ワークショップの作成の様子
（朝来市）



住民ワークショップの作成の様子
（南あわじ市）

4

2. 「集落カルテ」の作成

5

「集落カルテ」の作成

● 「把握する項目」の考え方

1. 「見える化する目的」に合わせて設定します

- ・サポートツールを活用する目的は、住民どうしが、集落の現状をもとに近い将来の姿を共有して、「今後難しくなること」、「必要となること」、「進路を話し合うこと」であることが多いと思います。
- ・そのための「目線合わせ」と「ロードマップの検討」につながるよう、項目を設定します。
※同一項目で定期的にチェック・点検することにより、集落の変化や適切な支援等の検討につながります。

2. 「項目の優先順位（段階）」に合わせて設定します

- ・「見える化する項目」は多分野・多数となることから、優先順位を設定します。
- ・「共通項目（75項目）」は必須項目とし、優先順位（段階）に合わせて、項目を設定します。

3. 「集落の特性」を参考にして設定します

- ・市街地や農村部など、集落の特性や成り立ちにより、共同活動の内容、把握する項目は異なります。
- ・「集落の特性」に合わせて、項目の取捨選択を行うなどにより、項目を設定します。
※次ページに、集落の特性に応じて分類化していますが、特性に応じてカスタマイズしてご活用ください。

6

「集落カルテ」の作成

●データの収集

1. 人口は「住民基本台帳」を用います

- ・国勢調査では、設定した集落の範囲の人口を正確に出すのが困難なため、「住民基本台帳」を用いて入力します。

2. 行政保有情報を複数部署と効率的に確認できる体制・手法の検討も推奨

- ・農地や山林の他、福祉など、複数部署に関わるデータが必要となりますが、毎回個別に確認しては各部署の作業負担が大きくなります。
- ・行政として、地域情報を一元的に把握できる方法、データ管理などの今後も見据えて整備することが望まれます。

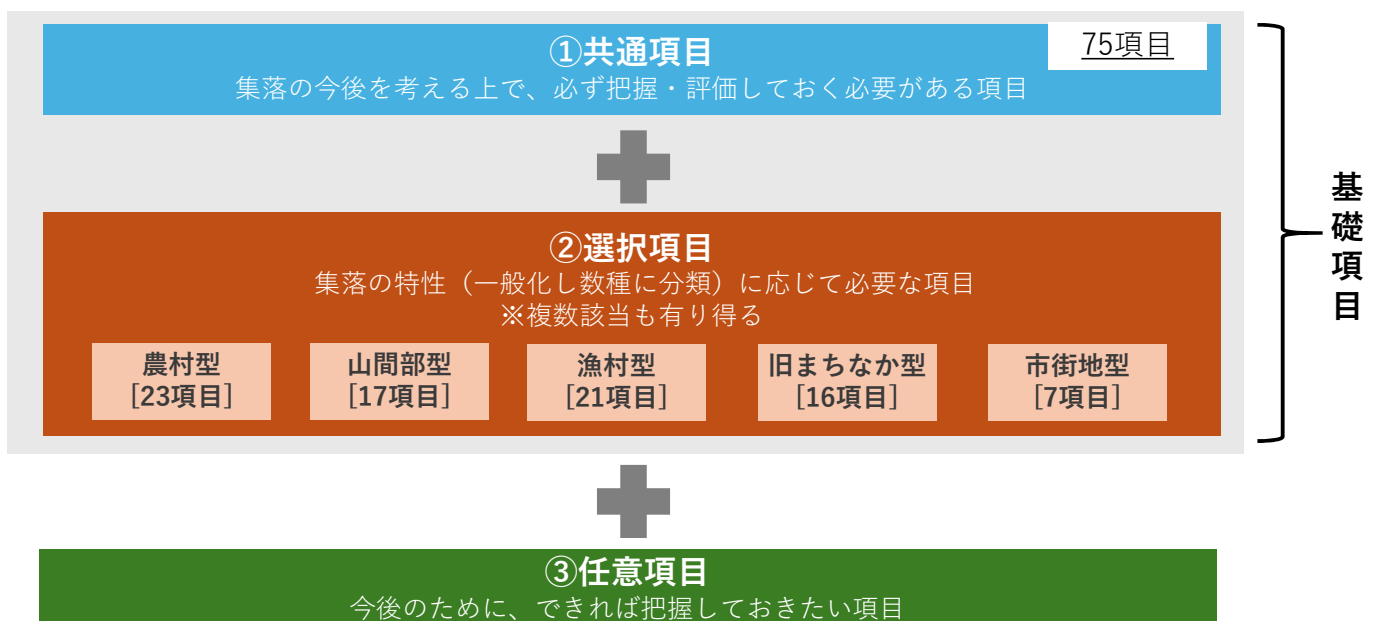
3. 地域の情報は、集落運営組織に聞く

- ・総会の資料などを提供してもらい、分かる範囲で記入し、**不明箇所は、自治会長等にヒアリング**を行います。
- ※ヒアリングする際は、自治会長だけでは分からないこともあります。客観性の観点も含め、複数人を対象にヒアリングを行いましょう。
- ※また、ヒアリングではなく、「集落カルテ」を自治会長等に配布し、集落で記載いただく方法も考えられます。

7

「集落カルテ」の作成

●項目の優先順位（段階）設定



8

「集落カルテ」の項目一覧

★【B】集落マップを活用した情報の把握方法は、手引き「集落マップの作成」を参照

①共通項目

集落の今後を考える上で、必ず把握・評価しておく必要がある項目

**下線部は必須
(75項目)**

1/3

大項目	中項目	小項目	定量把握	情報の把握方法		カルテ(エクセル)該当シート
				【A】集落カルテ	【B】集落マップ	
ひと・人口構造	人口推移 これまで10年	①総人口 ②年少人口(0-17歳) ③生産年齢人口(18-64歳) ④高齢者人口(前期高齢者 65-74歳) ⑤高齢者人口(後期高齢者 75歳-) *それぞれの割合 ⑥世帯数 ⑦世帯平均人数 ⑧75歳以上夫婦のみ世帯 ⑨75歳以上単身世帯 ⑩Uターン者 ⑪定期的に通う親族 ⑫拠点居住者など関係人口 ⑬転出予定者	○	住基台帳	シール色・数 ・記入情報	①ひと
		地理	○	行政情報(ハザードマップ)・地図情報	危険箇所 周辺との関係性	②地理歴史・施設
地理・歴史(地域特性)	歴史文化	①寺 ②神社 ③文化財 ④集落・自治会独自のもの	—	行政情報・地図情報	管理状況等	②地理歴史・施設
	住宅	①住宅数(痛み具合) ②空き家数(痛み具合)	○	自治会ヒア	空き家の状態	②地理歴史・施設
	交通	①バス(本数・タイムテーブル) ②鉄道(本数・タイムテーブル) ③その他(集落の共同移送など) ④通院・買い物(住民の主な手段)	○	交通事業者情報	利用状況 共同移送等	②地理歴史・施設
	情報通信	①携帯電波状況 ②光通信環境整備状況	—	通信事業者情報	場所や範囲	—
地域施設	住民共同管理施設・場所	①公民館/集会所(広さ・状態) ②広場・土地(広さ・状態) ③水路・側溝(距離・範囲) ④集落・自治会保有のその他資産(場所・建物・その他固定資産)	○	自治会ヒア	場所や範囲 境界	②地理歴史・施設

9

「集落カルテ」の項目一覧

①共通項目

集落の今後を考える上で、必ず把握・評価しておく必要がある項目

**下線部は必須
(75項目)**

2/3

大項目	中項目	小項目	定量把握	情報の把握方法		カルテ(エクセル)該当シート
				【A】集落カルテ	【B】集落マップ	
共同活動・作業	寄り合い・話し合いの場	①定期的にある寄り合い・話し合いの場 例)常会・役員会 など +選択型による独自の活動 (活動主体、活動名、活動内容、参加人数 時間数、年間回数)	○	自治会ヒア	—	④共同活動
	伝統・文化活動	①活動項目 例)どんど焼き、互礼会・講関係・神事・地藏盆・秋祭りなど +選択型による独自の活動 (活動主体、活動名、活動内容、参加人数 時間数、年間回数)	○	自治会ヒア	—	④共同活動
	環境・資産維持活動	①活動項目 例)草刈り・泥上げ・クリーン作戦・共有管理場所の清掃(寺・神社含む)・ため池管理 など +選択型による独自の活動 (活動主体、活動名、活動内容、参加人数 時間数、年間回数)	○	自治会ヒア	対象となる場所	④共同活動
	防災活動	①活動項目 例)防災訓練・消防団活動 など +選択型による独自の活動 (活動主体、活動名、活動内容、参加人数 時間数、年間回数)	○	自治会ヒア	—	④共同活動
	公民館活動	①活動項目 例)人権学習、生涯学習講座、交流活動など +選択型による独自の活動 (活動主体、活動名、活動内容、参加人数 時間数、年間回数)	○	自治会ヒア	—	④共同活動
	支え合い活動	①活動項目 例)敬老会、お茶のみサロン、健康体操、個別訪問等 +選択型による独自の活動 (活動主体、活動名、活動内容、参加人数 時間数、年間回数)	○	自治会ヒア	—	④共同活動
	体育活動	①活動項目 例)運動会、スポーツ大会、ラジオ体操など +選択型による独自の活動 (活動主体、活動名、活動内容、参加人数 時間数、年間回数)	○	自治会ヒア	—	④共同活動
	活性化にむけた活動	①活動項目 例)空き家活用、特産品づくり、マルシェ、移住者受入、外部交流等 +選択型による独自の活動 (活動主体、活動名、活動内容、参加人数 時間数、年間回数)	○	自治会ヒア	—	④共同活動
	情報発信共有方法	①活動項目 例)放送、回覧板、電子媒体 +選択型による独自の活動 (活動主体、活動名、活動内容、参加人数 時間数、年間回数)	○	自治会ヒア	放送拠点や 掲示板の場所等	④共同活動
	年間活動計画	①年間活動計画(有無、具体性)	○	自治会ヒア	—	④共同活動

10

「集落カルテ」の項目一覧

①共通項目

集落の今後を考える上で、必ず把握・評価しておく必要がある項目

下線部は必須
(75項目)

3/3

大項目	中項目	小項目	定量把握	情報の把握方法		カルテ (エクセル) 該当シート
				【A】集落カルテ	【B】集落マップ	
地域内組織・役員	組織	①自治会 ②財産区 ③公民館関係 ④寺関係 ⑤神社関係 ⑥まつり関係 ⑦防災組織 ⑧子ども関係 ⑨高齢者関係(老人会等) ⑩女性関係(女性会・婦人会等) ⑪その他選択型による独自組織	○	自治会ヒア	—	③組織役員
	隣保・組編成	①隣保・組(名称・世帯数、各隣保・組の年齢構成(特に75歳以上夫婦・75歳高齢者のみ世帯)) ②組再編の実績	○	自治会ヒア	境界や場所	③組織役員
	役職	①自治会長・区長 ②副自治会長・副区長 ③会計 ④組長・役員・評議員等 ⑤財産区長など財産関係役 ⑥公民館長・公民館主事 ⑦寺総代等寺関係役 ⑧神社総代等 神社関係役 ⑨まつり関係役 ⑩防災関係役(消防団含む) ⑪子ども会関係役職 ⑫老人会等高齢者関係役 ⑬女性会頭女性団体役 ⑭民生委員児童委員・福祉委員等福祉関係 ⑮行政から依頼役 ⑯その他選択型に応じた独自の役 ⑰地域の現リーダー(役は別として) ⑱将来のリーダー候補(役は別として)	○	自治会ヒア	—	③組織役員
参加機会	女性	①女性が複数・定例で集まる機会や場(名称、参加者数/回、年間回数、内容)	○	自治会ヒア	—	⑤その他
	若者	①若者(概ね10-40代)が複数・定例で集まる機会や場(名称、参加者数/回、年間回数、内容)	○	自治会ヒア	—	⑤その他
	外部人材(他出者含む)	①外部人材(関係人口・他出者・専門家やアドバイザー等が複数・定例で集まる機会や場(名称、参加者数/回、年間回数、内容)	○	自治会ヒア	—	⑤その他
組織連携	地域運営組織	①広域の地域運営組織との連携(有無、ある場合その内容)	—	自治会ヒア	—	⑤その他
	周辺組織	①周辺自治会・集落・関係組織との連携(有無、ある場合その内容)	—	自治会ヒア	—	⑤その他
資金資産	自治会費・区費	①有無 ②金額(1会員あたり・年・月ごとなど) ③免除規定 ④これまでの見直し実績	○	自治会ヒア	—	⑤その他
	固定資産・預金	①流動資産(預貯金) ※具体金額の開示ができない場合、十分・不十分など程度を確認 ②年間予算(うち、補助金や補助金利用実績) ③固定資産(土地・建物) ※同上	○	自治会ヒア	—	—

11

「集落カルテ」の項目一覧

②選択項目

集落の特性(一般化し数種に分類)に応じて必要な項目 ※複数該当も有り得る

1/2

大項目	中項目	小項目	定量把握	集落の特性					情報の把握方法		カルテ (エクセル) 該当シート
				農村型	山間部型	漁村型	旧まちなか型	市街地型	【A】集落カルテ	【B】集落マップ	
地理・歴史 (地域特性)	農林業	①農地面積 ②耕作・営農状況 ③担い手(所有者、耕作者、預け先)	○	✓	✓	△	△		農業委員会等情報	境界・状態	②地理歴史・施設
		①獣害柵設置の有無 ②距離・管理状況 ③管理者	○	✓	✓	△	△		自治会ヒア	境界・長さ・状態	②地理歴史・施設
	産業	①森林面積 ②森林の管理者・管理状況(境界把握有無) ③担い手	○	✓	✓	△	△		行政情報	境界・状態	②地理歴史・施設
		①産業別就業者数 ②事業所数 ③事業所の分野・業態	○	✓	✓	✓	✓	✓	行政情報	—	—
地域施設	観光	①事業所数 ②事業所の分野・業態	○	△	△	△	✓	✓	行政情報	場所	②地理歴史・施設
		①観光施設	—	△	△	△	✓	✓	行政情報	場所	—
共同活動・作業	公共施設	①保育園・幼稚園 ②小学校 ③中学校 ④高校 ⑤その他教育施設 ⑥児童福祉施設 ⑦高齢福祉・障害福祉施設	—	△	△	△	✓	✓	行政情報	場所	②地理歴史・施設
		①役場等 ②その他行政施設	—	△	△	△	✓	✓	行政情報	場所	—
		①獣害対策活動(柵点検・設置など) (活動主体、活動名、活動内容、参加人数 時間数、年間回数)	○	✓	✓	✓	△		自治会ヒア	場所・長さ・状態	④共同活動
		①ため池管理 (活動主体、活動名、活動内容、参加人数 時間数、年間回数)	○	✓		△			自治会ヒア	場所・状態	④共同活動
共同活動・作業	環境維持活動	①除雪(活動主体、活動名、活動内容、参加人数 時間数、年間回数)	○	✓	✓	✓	△		自治会ヒア	場所	④共同活動
		①景観保全活動 (活動主体、活動名、活動内容、参加人数 時間数、年間回数)	○	✓	✓	✓	△		自治会ヒア	場所・状態	④共同活動

12

「集落カルテ」の項目一覧

②選択項目

集落の特性（一般化し数種に分類）に応じて必要な項目 ※複数該当も有り得る

2/2

大項目	中項目	小項目	定量把握	集落の特性					情報の把握方法		カルテ (エクセル) 該当シート
				農村型	山間部型	漁村型	旧まちなか型	市街地型	【A】集落カルテ	【B】集落マップ	
共同活動・作業	農林・漁業活動	①農業に関する共同活動 (活動主体、活動名、活動内容、参加人数 時間数、年間回数)	○	✓	✓	△	△		自治会ヒア	場所	④共同活動
		①林業に関する共同活動 (活動主体、活動名、活動内容、参加人数 時間数、年間回数)	○	△	✓	△			自治会ヒア	場所	④共同活動
		①漁業に関する共同活動 (活動主体、活動名、活動内容、参加人数 時間数、年間回数)	○	△		✓			自治会ヒア	場所	④共同活動
地域内組織・役員	組織	①農地組合・農会 ②多面的機能…組織 ③人・農地or地域計画有無	—	✓	✓	△	△		自治会ヒア	—	③組織役員
		①山・林関連の財産区等	—	△	✓	△			自治会ヒア	—	③組織役員
		①漁業・漁港管理組織等	—	△		✓			自治会ヒア	—	③組織役員
		①商店会関係組織 ②街灯組合関係組織 ③テレビ等共聴関係組織	—	△			✓	✓	自治会ヒア	—	③組織役員
	役職	①農地組合・農会長 ②多面的機能…組織長	—	✓	✓	△	△		自治会ヒア	—	③組織役員
		①山・林関連の財産区等の長	—	△	✓	△			自治会ヒア	—	③組織役員
		①漁業・漁港管理組織等の長	—	△		✓			自治会ヒア	—	③組織役員
		①商店会関係組織の長 ②街灯組合関係組織の長 ③テレビ等共聴関係組織の長	—	△			✓	✓	自治会ヒア	—	③組織役員

13

「集落カルテ」の項目一覧

③任意項目

今後のためにできれば把握しておきたい項目

「①共通項目」及び「②選択項目」から、優先順位の視点で落としたものを候補に、**実証時や市町との意見交換時に「追加すべき」と判断した項目、評価の参考情報的に必要な項目があれば追加します。**

◆項目の例

- ・ 定性的な内容として、集落の文化的・歴史的な事柄・言葉など、集落史のような内容や組分け～行事などの慣習的ルール
- ・ すでに把握している住民意見や意向（アンケートや話し合いや寄り合いの結果）
- ・ 将来気になること・困っていること
- ・ すでに実施してきた自治会や集落の見直し（役・組織・活動など）

14

3. 「集落マップ」の作成

「集落マップ」の作成

準備した地図を用いて、集落内の実情を「シールを貼る」、「記載する」などにより把握します。

1. 地図の選定・準備

●種類

(株)ゼンリン社の住宅地図が扱いやすく推奨します。
農地面積等が広い場合は、農業委員会が保有する地図等を活用することも考えられます。可能な限り最新の地図を使いましょう。
シールの色が目立つように、モノクロの地図を推奨します。

●縮尺

縮尺は1/500~1/1000の地図が扱いやすく推奨します。集落面積・住宅数・密集度・参加者の年齢等によって、適宜調整することが必要です。

●準備する数

集落ごとに、「現在」「10年後」の2種類を作成するため、2枚必要です。

●地図の大きさ

地図の取り回しや、「現在」「10年後」の地図を机の上で並べて見ることができるようにA0~A1サイズ(模造紙程度)を推奨します。

●事前の確認(事前に記載する内容)

市街地など建物が密集している場合、家の特定が難しく、作業に時間がかかる可能性があります。
その場合は、公共施設や住宅表札が印字されているものなど、実情に合わせて書き込んでおきましょう。
また、「集落の範囲が途切れていないか」をよく確認しておきましょう。



「集落マップ」の作成

2. その他準備するもの

●シール（各グループで各色2シート程度）

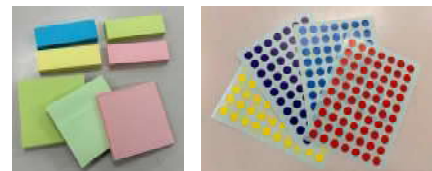
次のページで示す各色のシール（○、☆など）を準備します。
準備した地図に貼り付けた場合、家が隠れない程度の大きさ（直径8mm～16mm）を推奨します。

●付箋（適宜）

参加者の発言をメモするための付箋を準備します。
地図に貼ることを想定し、正方形のほか小さめの長方形も推奨します。

●水性マーカー（グループ数）

1グループに5色程度必要です。
油性マーカーは裏移りするため、水性マーカーを推奨します。



付箋

シール

●文房具類

はさみ、黒細水性ペン、マスキングテープなど。

●その他

- ・グループワークを行う机（長机3つを並べるなど）に、2枚の地図を並べて配置できるサイズを推奨します。
- ・プロジェクターが投影できるスペース、地図を貼れるホワイトボードやスペースがあれば、作成した地図を見比べやすく、発表時にも提示しやすくなります。
- ・会場が広い場合、人数が多い場合などは、マイクを使うことで運営がしやすくなります。

「集落マップ」の作成

3. 把握する項目

①地図に書き込む情報（「現状」と「将来：10年後」の両方）

- 世帯とその人数・年齢
- 隣保・組
- 地域施設・公共施設（公民館、集会所、水路、ため池など）
- 空き家
- 農地の管理状況
- 寺社仏閣
- 危険箇所
- 交通
- その他の情報（掲示板、防災無線の位置、携帯電波状況など） 等

「サポートツールを活用する目的」（例えば、集落の維持管理を話し合うなど）を達成できるように、「把握する項目」を検討しましょう。

②話し合いの中で確認していく項目

—地図をつくりつつ・眺めながら、以下の項目を話題にしながら、話し合う

- 現在の集落の役職・共同活動の内容など（カルテの補足）
- 将来について話し合う場・集落の行事・役職等の見直しや変更の有無・状況
- 集落で暮らしたつ続けるために必要なこととそれらに対応し、集落で取り組んでいること
- 空き家や農地等の資産・土地利用の対応状況と意向
- その他、将来に向けて気になること・不安なこと・必要なこと

「集落マップ」の作成

「現在」 を見える化

4.作業の手順①

「現在」の集落のことを「地図に見える化」します。
集落の範囲内の地図に、次の情報のシールを貼ったり、地図に書き込みます。

人世帯	18歳未満	●シール
	18歳～64歳	●シール
	65歳～74歳	●シール
	75歳以上	●シール
関係者	頻繁に帰ってきそう、通っていきそうな人	☆マークを記載
隣保・組	境界線	マーカーで記入
地域施設 公共施設	場所・名称	マーカーで記入
空き家		シールが貼られない家
農地	管理や営農状況	マーカーで記入
寺社仏閣	場所・名称	マーカーで記入
危険箇所	場所・名称	マーカーで記入
交通	場所・名称	マーカーで記入
情報	場所・範囲・名称	マーカーで記入

「共同活動が男性に偏っている（草刈り、祭り、役の見直し）」など、検討内容によっては男女を分けた方がいい場合があります。

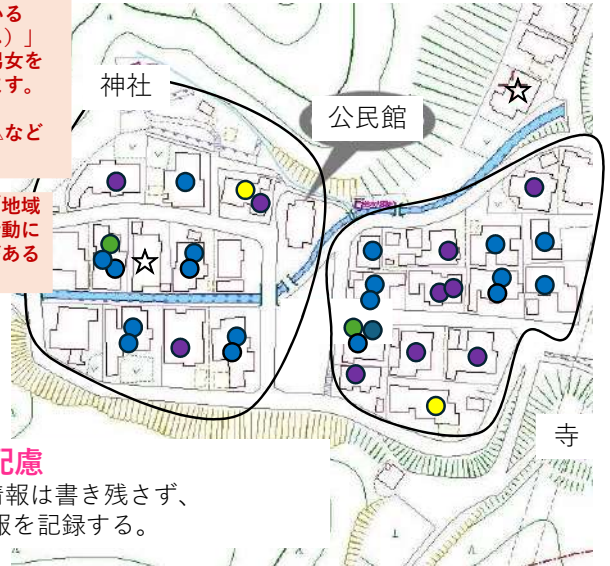
その場合は、男性○、女性△など工夫しましょう。

「地域の方に挨拶する」、「地域の集会に出る」など、地域活動に関わる意思がある人、交流がある人を想定しています。

農地がない場合は不要。
※「把握する項目」は事前に検討

個人情報への配慮

・特定される情報は書き残さず、抽象化した情報を記録する。



「集落マップ」の作成

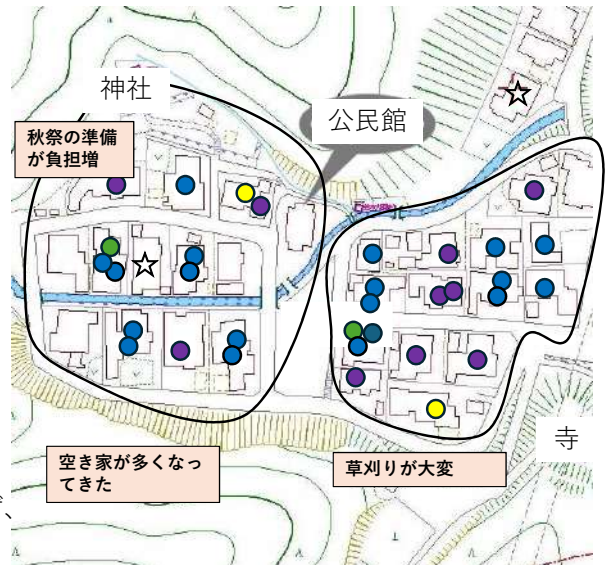
「現在」 を見える化

4.作業の手順②

「現在」の地図を見ながら、

- ・集落の現状、
- ・課題（困っていること）
- ・感想や思ったこと

などを話し合いながら、付箋に書いて地図に貼っていきます。



個人情報への配慮

・特定される情報は書き残さず、抽象化した情報を記録する。

「集落マップ」の作成

「10年後」 を見える化

4.作業の手順③

「現在」の地図を見ながら「10年後」を予測して「10年後の地図に見える化」します。集落の範囲内の地図に、次の情報のシールを貼ったり、地図に書き込みます。

人世帯	18歳未満	●シール
	18歳～64歳	●シール
	65歳～74歳	●シール
	75歳以上	●シール
関係者	頻繁に帰ってきそう、通っていそうな人	☆マークを記載
隣保・組	境界線	マーカーで記入
地域施設 公共施設	場所・名称	マーカーで記入
空き家		シールが貼られない家
農地	管理や営農状況	マーカーで記入
寺社仏閣	場所・名称	マーカーで記入
危険箇所	場所・名称	マーカーで記入
交通	場所・名称	マーカーで記入
情報	場所・範囲・名称	マーカーで記入

現在18歳未満の住民で10年後に「大学進学」などで集落を出ていく可能性が高い場合はシールを貼りません。「地域に残る意思」がある場合は、シールを貼ります。

「10年後も亡くならないもの」としますが、集落の実情や考え方に合わせてルール（条件）を決めておくことが重要です。



個人情報への配慮

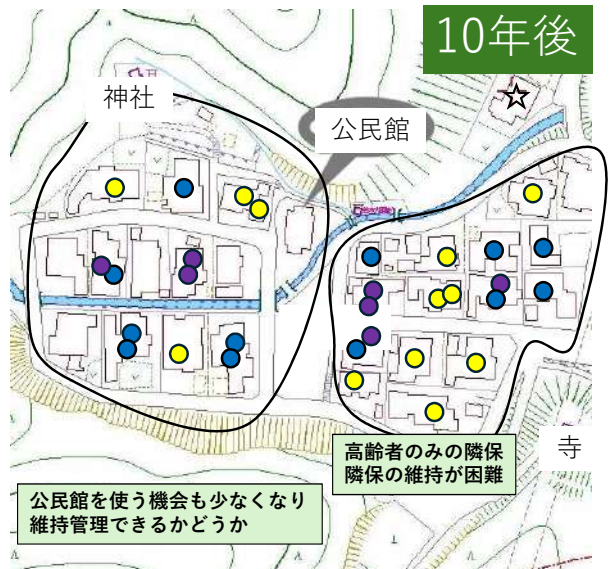
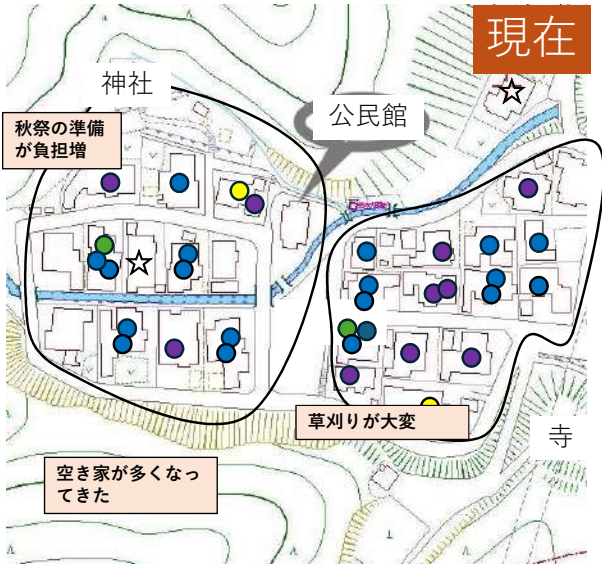
- ・特定される情報は書き残さず、抽象化した情報を記録する。

「集落マップ」の作成

「現在」と「10年後」 を比較

4.作業の手順④

「現在」と「10年後」の地図を見比べながら、「課題になりそうなこと」、「今後気になること」などを話し合い、付箋に書いて地図に貼っていきます。



「集落マップ」の作成

4.作業の手順⑤

各グループで話し合った内容を発表します。



内容の共有の様子（南あわじ市）



マップ作成の様子（南あわじ市）

4. 情報の一元化

情報の一元化

作成した【A】集落カルテ・【B】集落マップを、取りまとめてデータ化し、情報共有ができるよう整理します

【A】集落カルテ

集めた情報は細かい情報も含むため、共同活動の内容を抜き出しが一目でわかるように、概要版を作成します。

また、共同活動を定量的に把握した場合（参加人数、回数、時間数を把握した場合）は、年間の活動時間を算出します。

The screenshot displays a complex data interface for a settlement card. It includes a top header with a title and navigation buttons. Below this, there are several data tables with columns for dates, names, and numerical values. A prominent feature is a horizontal bar chart with green segments, likely representing activity time or participation rates. The interface is organized into multiple sections, each with a distinct color-coded header (blue, green, orange).

集落カルテ概要版

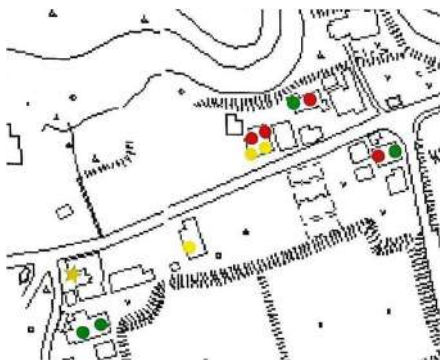
情報の一元化

【B】集落マップ

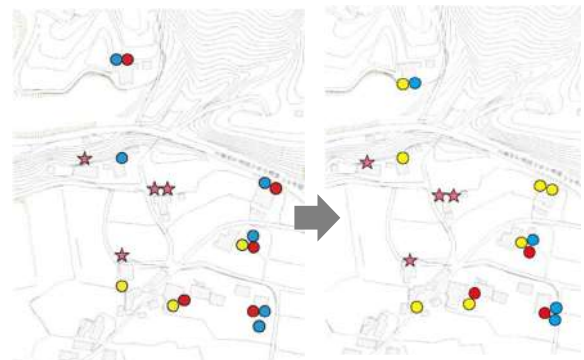
①紙ベースで作成した集落マップを、扱いやすいようにデータ化します。

方法1：地図を写真に撮ってデータ化する

方法2：ベース図をパワーポイントに取り込み、データ上の図形で再配置する（位置のズレ、縮尺の微妙な違いがなく見比べやすい）



例1：丹波ひとまち支援機構実施の地図撮影データから加工引用



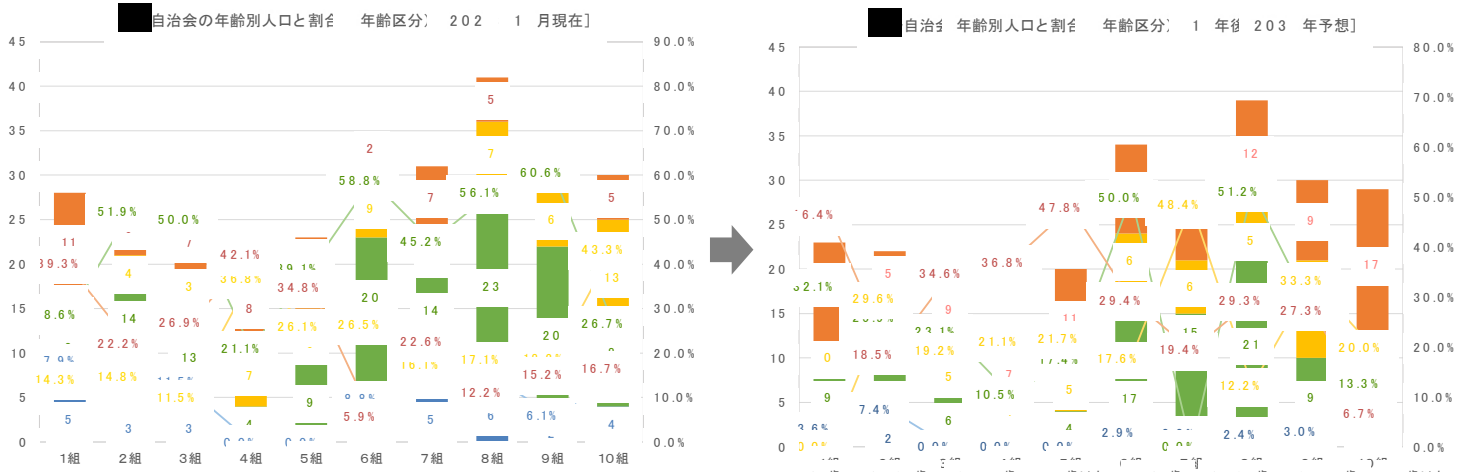
例2：徳島大学田口太郎研究室 提供資料から加工引用

情報の一元化

【B】 集落マップ

②貼られたシールの数をカウントし、表やグラフで表現します。

シールの数をカウント・数値データ化したサンプル例



例: 丹波ひとまち支援機構実施のデータから引用

情報の一元化

【B】 集落マップ

③「気になること」など地図上に記載したこと、作成中に話し合われた内容などを、テキストデータとして入力します。

地域に貼り付けた付録の内容(情報補足は記入)	10年後	
	カテゴリ(数字入力)	内容(カテゴリに「現職職・退職予定・退職済」以外を記入)
住宅地図情報	いま	① 高齢者世帯では庭にだらから雑草が入っているところがある
	いま	② 庭草やハスなどの公共交差点に生い茂るのが嫌しい。草が刈割できるかはいいだが、子どもや高齢者が生活するには不便も多いだろう
	いま	① 雪が多いための生活に苦労する。 雪がの雪が全滅する
	いま	① 結婚して 20年ほど経ち、地元への愛着や家の管理など思いはあっても、生活のことは家畜などで考えると現実的な選択なのではないか。二拠点生活をしている人も多い。(この人はどのくらいこっちは住んでるかな...という会話が多くなっている)
	10年後	① まだずっと公営館まで集まるのも大変。この辺りでは安否確認なども難しいのではないかと。(今でも近所のことは分かるが遠くのことには分からない。)
	10年後	① 今のままの状態で自治会運営を続けていけるのか、日役も出席者も足りなくなるのではないかと。消防用具も手がいなく、形骸化しつつあるように感じる。
	10年後	① 空き家が増えそうなことが改めて分かった。今でも間に管理されている空き家があり、危険が潜んでいる。空き家の草刈りや管理をどこまで自治会でやるのかという問題がある。
	10年後	① 山の管理はできるのだろうか。特に狩猟者が分かれている人はもういないのではないかと。
	10年後	① 引き継ぎ... 市内の便利なところに出ていく人は増えると思う。特に子育て世代。子育てのことを考えると敷し方ないとも思う。
	農地地図情報	いま
いま		② 耕作放棄され空きが広がっているエリアがある。一部では雑草だらけという声もあるが、そんなものあって当たり前かな。
10年後		④ 中心付近の農地は10年後も残るのではないかと。(ただし、今の耕作者が10年後も取り組んでいる、というだけの話ではあるが...) は個人の耕作者が多く、大規模農業しているところはない。誰かできるとは思っているけど(何人か名前が挙がるけれど、できる人はいないよなと)

10年後の私の暮らしと自治会が気になること		
物自治会や集落マップで気づいたこと	年齢構成の変化(後継者高齢者が減る)自治会でも年齢構成が異なる	10年後の... では後継者高齢者が減り、子どもはとんたないなくなる。 に関してでも耕作を続けたいと変わらない。 生産年齢人口が減少する。 ... 高齢化が加速する。
	農地の耕作ができるか	本格的に耕作放棄地は恐ろしくも増えない印象。 圃場を込めれば結果的にはいい。 農地については耕作者次第の部分もある。 10年後も農業は維持されるだろう。 ... では大きな営農組合はなく個人が多いので、どうなるか。
10年後の私の暮らしで気になること	農地の管理ができるか	田圃を任せるといなくなると思う。
	自由会の役員は必置だが、若い人が少ない	役員は任せてくれる、それはいいとしても次に任せる人がいるのか心配。いつまでも続かないのではないかと。
	心配はあまりしていない	私の暮らしとして、ということではあまり心配はしていない(現状通り)との意見が多数。
10年後の自治会で気になること	大人数の広さゆえ、安否確認が困難に	は必ずしも公営館まで集まるのも大変。この辺りでは安否確認なども難しいのではないかと。(今でも近所のことは分かるが遠くのことには分からない。)
	自治会の役員は必置だが、若い人が少ない	今のままの状態で自治会運営を続けていけるのか、日役も出席者も足りなくなるのではないかと。消防用具も手がいなく、形骸化しつつあるように感じる。
	空き家の増加による増加への対応方法	空き家が増えそうなことが改めて分かった。今でも間に管理されている空き家があり、危険が潜んでいる。空き家の草刈りや管理をどこまで自治会でやるのかという問題もある。
これから必要なこと	山林の管理はできるのだろうか。特に環境維持が分かれている人はもういないのではないかと	山の管理はできるのだろうか。特に環境維持が分かれている人はもういないのではないかと。
	若い世代は今後も外へ出ていく	引き継ぎ... 市内の便利なところに出ていく人は増えると思う。特に子育て世代。子育てのことを考えると敷し方ないとも思う。
	耕作放棄された空きが広がっているエリアがある。一部では雑草だらけという声もあるが、そんなものあって当たり前かな	耕作放棄された空きが広がっているエリアがある。一部では雑草だらけという声もあるが、そんなものあって当たり前かな。
前にも気づいたこと	集落の維持・財産の管理を自治会で実際に考えること	... 前にも気づいていたことではない。 耕作、を真剣に考えているかについては、 世代や人口減が急激な状況の認識が必要。 個人に任せるのではなく、 町会管理を行う必要がある。
自治会の体制や方法を考える	...	体制はもちろ、自治会活動の方向性や内容についてもスリム化が必要。 これまでのやり方で体制が維持できない、女性の参画

丹波ひとまち支援機構実施地域のデータで作成したもの